

すくわくプロジェクト

テーマ：水と泡

～けやきぐみ～

テーマの設定理由

保育室の目の前がテラスになっており、雨が降った日にどれくらい雨水がたまるかを眺めていたことをきっかけに、水で遊び始める。水がたまるのに伴って泡が発生し、泡に対する興味が膨らんでいった。色んな素材を使って泡を作ってみたり、泡の混ぜ方や保存方法を工夫しようとする姿も出てくる。泡の感触にも興味を持ち、子どもたちから発想が次々と生まれてきたことにより、泡と水について探求することにした。発見や気づきを少人数の友だちの中で出し合いながら、目の前の事象に興味を持ち、色々なことに挑戦してみたり、考えたりすることを楽しんでもらいたい。

泡との出会い

4月下旬ごろから“水”に興味を持ち始めたけやき組。「暑くなってきたから、水が気持ちいい」と水道の水を出しては感触や温度を楽しんだり、雨の日にテラスに出て少し雨を浴びたり雨を集めたりして楽しんでいました。気温が上がり外に出られない日でも室内で水遊び、感触遊びを楽しんでいきたいと思い、お部屋にあった食器用洗剤を使って泡遊びを導入しました。(食器用洗剤にした理由:保育室にあったから。シャボン玉もやってみたいとこの時は担任の中で考えていたから)





遊びがダイナミックになってきたので、テラスに移動して遊びを楽しみました。1人の子が注射器のようなものでペットボトルに入った洗剤液に空気を送ると泡があふれ出してきました。周りの子どもたちもそれを見て「すごい！」「泡が出てきた」と言って、注射器を交代で使い、泡が溢れる様子を楽しんでいました。

今回の気付き

物(ストローやスポイト等)で空気を入れることで泡立つということに気付いた様子。次回もストローや今回使った注射器のようなものを使って泡立てることを楽しんでいこう

ストローを使って泡立てる

前回の泡遊びの中で、空気を入れると泡がたくさん膨らむということに気付いた様子の子どもたち。前回と同じ、食器用洗剤を使って洗剤液を作り、ストローを使って空気を送ります。



泡に色を付けてみよう

子どもたちの中でも泡遊びが楽しい活動になったようで、この日は子どもから「ねえ、色付きの泡作らないの？」との声があり、泡に色を付けて遊びました。子どもたちに「何で色を付ける？」と担任が質問すると、絵の具で色を付けるということだったので、食器用洗剤で作った洗剤液に絵の具をいれ、ストローや手で泡立てました。



家にある、泡になるものを使って、、、

今回はボディークリームとシャンプー、トリートメントを用意し泡を作ってみました。香りが強く「温泉のにおい」「お風呂みたい」と喜んで活動しています。ボディークリームを泡だて器で泡立てると今までで一番きめ細かい泡ができて「本当のクリームみたい」と喜んでいました。トリートメントは泡立ちが悪く、「全然泡が立たない」と言いながら混ぜています。子どもにとっても身近な素材で泡を作ったことで「バスボムも泡じゃない?」「コーラとか振って開けるとやばいらしいよ」と身の回りの泡に興味を持ち始める姿が出てきました。



炭酸水を振ってみた！

今回は6回目の活動の時に“バスボム”と“炭酸飲料”の泡に触れてみることにしました。炭酸飲料に関しては「振ってから開けると、噴き出してくる」という子どもたちから出た言葉を拾って実践してみました。今回用意したのは、強炭酸水2本。「どのくらい振ったらいいのかな？」と担任が声を掛けると「1人、10回ずつ振る」と決めた子どもたち。11名が順番に10回ずつ振っていきました。「たくさん振ったからすごいことになるんじゃない」「空まで水が上がるかも」とキャップを開ける前はワクワクしていた子どもたち。しかし、開けてみるとプシュツという音はしたものの噴き出しませんでした。「なんで」とペットボトルをのぞき込む子ども。ある子が「振りすぎたんじゃない？」と言うと「じゃあ、今度はちょっとだけ振るか」と2本目は振る回数を少なくしました。



2本目は「1人3回ぐらいでいいんじゃない？」と意見が出たので、3回ずつ振ることにしました。5人が振ったところで「そろそろ開けてみよう！」と声が上がったのでキャップを開けてみました。2回目も噴き出さず、「なんで？」と少し残念そうな子どもたちです。担任も噴き出すと思っていたので「なんで噴き出してこなかったんだろうね」と驚きながら、子どもたちと考えてみました。今回使ったのは炭酸水。炭酸水を見て「ぼくが見たことがあるのはコーラなんだよ。コーラならできるんじゃない？」という意見と「これ甘くないからできないんじゃない？コーラも甘いし、甘い炭酸のやつならできるかもよ」という声が上がったので、次はコーラや他の炭酸飲料でもやってみようということになりました。また、「もう1回炭酸水でやりたい」という声も出たので、炭酸水でのリベンジもすることにしました。

炭酸水はボウルに入れてみんなで触ってみました。「下から泡がたくさん出てる」「触ると普通の水みたい」と感触や泡の様子を感じたり見たりしていました。



コーラを振ってみた！そして、炭酸水のリベンジ

この日は、前回の炭酸水のリベンジをしました。子どもからリクエストのあった飲み物でチャレンジ。コーラ
でやってみました。10回振って開けてみると噴き出しました。
「やっぱりコーラはでた！」と大喜びです





たまたま用務の先生が通りかかり
「もっと振ってみなよ！」と先生が思いきり何回も振ってくれました。
すると、大爆発！子どもたちも大興奮で、「飛びすぎ！」「こんなに出るの！」と驚きを隠しきれない様子です。



最後は前回の確認を含めて、炭酸水を振って開けてみました。

「噴き出すと思うよ」「絶対そうでしょ」と子どもたちが話していましたが、やってみると泡立つものの噴き出してこなかったのです。

「え、、、!」「やっぱり甘くないからかな」と噴き出さない様子にも驚く子どもたちでした。

担任も噴き出すかな、、、と思っていたのでこの結果には驚きました。

今回の気付き

一度やってみたが予想と違っていたことをきっかけに“やってみたい”“どうして”と心を動かした子どもたち。複数の飲料で試してみて、炭酸水だけ噴き出さなかったという結果が前回の活動と繋がったことが今回の活動のやりがいになったようだ。

振り返り ～泡の探求活動を通して～

泡に興味を持ち泡立てて遊ぶ楽しさから始まった活動だったが、半年間も続くとは思っていなかった。最初は保育園にあるもの(食器用洗剤)で泡づくりをしていたが、担任が台ふきんを洗っている様子を見て「やってみたい！」と興味を持って洗濯洗剤に触れてみたり、徐々に家庭での経験や、動画で見た経験を言葉に出しながら泡になるものを見つけてくる子どもの姿が出てくる。活動のきっかけになった子どもたちの“楽しい”という気持ちを継続できるよう、子どもたちから出た声を拾いつつ、大人も一緒になって楽しんで泡に触れていくことを意識して活動してきた。

活動の中で印象的だったのは、同じ活動の中で友だちと話しながら道具を変えて泡づくりを楽しんでみたり、水の量を変えたりと工夫や変化をつけながら何度も繰り返し楽し取り組む姿があった事である。大人の援助として、ある事象について科学的なところを追求することも一つだったかもしれないが(例えば、成分表示を参考にしたり、子どもの気付きに対して問いをかけ“なぜ”を突き詰めたり)、“こうしてみたい”“やってみたい”がたくさん出ている子どもの姿があったので、今回は子どものやってみたいことを拾いながら、幅広く、泡になるものと泡そのものに触れていく事にした。

泡の活動の中で自然と友だちとの会話も増え、「次はこんなことをしてみたいね」と活動に期待を持って楽しむ姿が見られた。大人ではなく子ども自身が準備し、遊んでいく意欲的な姿が見られた。

～備考～

<活動に用いた道具>

水、絵の具、各種洗剤、ボウル、泡だて器、ストロー、ポンプ、炭酸飲料 等

<活動スケジュール>

5月 (2日、13日)

6月 (27日)

7月 (4日、7日)

8月 (21日)

9月 (24日)

11月 (4日、7日)

計9回